（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	希望の丘豊橋			
○保護者評価実施期間	2025年　2月　10日		～	2025年　2月　28日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	46名	（回答者数）	46名
○従業者評価実施期間	2025年　2月　10日		～	2025年　2月　28日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	12名	（回答者数）	12名
○事業者向け自己評価表作成日	令和　7年　3月　24日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○環境 指導訓練室、屋外遊戯場ともに広く、自然が豊かでのびのびと過ごせる環境にある。五感を使って子どもたちは主体的に活動し、様々な発見を職員やお友達と共有することを楽しんでいる。	子どもたちが意欲に合わせて行動できるように室内外は自由に行き来ができるようになっている。（部屋の扉や大開口も締め切ることはしない） 人に迷惑をかける行為以外にやってはいけないと決まっていることはなく、『やってみたい！』と挑戦する気持ちに寄り添っている。	屋外遊戯場での遊びがより安全で豊かになるように、環境を整備していく。具体例としては石拾い（裸足で遊ぶ安全確保）、砂を柔らかくする（砂遊びの充実）、プランター栽培（食育）、朝顔などを育てる（自然物遊び）、竹のとい（水遊び）など。
2	○人員配置 主に保育士資格を有する常勤職員を多く配置し、療育にあたっている。意思決定支援や行動援護従事者（強度行動障害支援者）などの研修を修了した職員も含まれる。	たくさんの視点で子どもたち一人ひとりを見ることで、困り感や成長を見逃さず、子どもの行動の理解やそれに伴う支援方法の充実へとつなげている。特に意思決定支援の意識を大切にしており、支援に際して支援者都合、保護者都合の見方や関わり方にならないように留意している。	意思決定支援の研修受講を今後も促していく。 支援方法の検討や振り返りの時間を大切にし、様々な気づきを職員みんなで共有して統一した目標につなげていく。日々変わる子どもたちに合わせて、目標に向かう為の支援方法は柔軟に変更していく。（この姿にはこう関わるという決めつけはしない）
3	○活動内容 リズム遊び、製作遊び、土粘土遊び、戸外遊び、散歩、食育、買い物、こども園や児童クラブとの交流など、様々な活動を設定し行っている。	季節やその時々の子どもたちの興味関心に合わせた遊びを考え設定している。集団活動が苦手なお子さんに関しては、活動への参加は基本的に自由にしつつ、経験の機会が少なくならない様、個々に合わせたタイミング、環境づくり、工夫をしながら誘っている。	子どもたちの『好き！』がたくさん見つかるようなきっかけ作り（活動やそれに伴う導入）を大切にする。全てを設定して提供するのではなく、子どもたちと一緒に発見し、考え、その為に必要なものを準備するという、一緒に遊びを作り上げる過程も楽しめるようにする。
4	○保護者の方からの相談 送迎の際のコミュニケーションや時間をかけて丁寧に行うモニタリングなどで、悩みや困りごとが共有できる機会を作っている。職員が多く、様々な視点を紡ぎ合わせることができる。	普段からコミュニケーションを多くとっていくことで関係性を作り、安心して思いが出せるようにしている。自分から積極的に発信されない保護者もみえるので、表情などを見て職員側から声を掛けるようにしている。 対応や返答に困った場合は持ち帰って職員間で話し合いを行い、後日お返事をするようにしている。	今後も引き続きアプリを通して一人ひとりに向けた記録の配信を丁寧に行う。また、周りの子と比べる成長ではなく、その子自身の成長が伝わるようなエピソードをたくさん保護者の方へお話していく。相談事は解決することを1番の目的にするのではなく、お話をしっかり聞き、一緒に考えていく姿勢を大切にする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○専門的なプログラムや研修会を提供する機会が作れていない。	・プログラムや研修会の開催に対するハードルが高くなってしまっている。 ・相談時にお話ししたことや支援方法などが各資格取得者の方が伝えることと一緒だったとしても、“プログラム”と銘打っていないことで専門性が伝わりにくかったり保護者の方に入りにくかったりする場合がある。	・保護者の方に知識をお伝えする姿勢ではなく、一緒に考えるという姿勢は今後も大切にしていきたい。 ・プログラムや研修会という堅苦しい感じでなく、その時に気になることや知りたいことを一緒に学んでいく形のものを何か企画したい。
2	○地域住民を招待する形での地域連携が持てていない。	・地域の方を呼ぶようなイベント等の開催は計画も実行もできていない。 ・他の事業所が行っているイベント等に参加をしたことがなく、どのような形ならできるのかのイメージが湧かない。	・まずは法人の関連施設の招待をするなど、ハードルを下げた開催の方法を考えていく。 ・機会を見つけて他事業所のイベントに参加させていただく。
3	○保護者の方への活動報告等の発信が少ない。	・活動報告は主にクラウドサービスにて発信しているが、どの活動をアップするかにきまりはなく、職員の意欲に左右される。 ・全保護者に向けての活動報告は子どもたちの顔が写っていないよう配慮をしているが、活動報告をアップするという思いがないと顔が写る形で写真を撮るので活動報告に利用できる写真がない。	・職員の心が動いた活動をアップしてもらえばいいと思うが、『誰かが書いてくれるかも』や『写真が撮れていないから』などの理由でアップしないのは勿体ないので、職員が主体的にアップできるように内容の見直しやポイントの共有などを行っていく。
4	○保護者同士が交流する事業所発信の機会が少ない。	・イベントの際に保護者交流を行っているが、人数が増えてきたことで十分な交流につながっていない。 ・イベント以外で保護者交流の機会を設けることができていない。	・保護者交流会をイベントと切り離した形で行うことを検討する。（土曜日に仕事がある方もいる） ・学年ごとにするなど、集まる人数を少人数に設定する。 ・テーマで参加募集をするなど、興味に添った参加ができるようにする。